

空手 I

担当教員 山城 博邦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

空手道は沖縄が世界に誇る伝統武術である。この授業科目は、空手道の精神と技を習得させ、人格涵養の基礎を作り、武の求める「円満、平等、平和」の精神を実践躬行する。

沖縄の生んだ近代(明治)以降の名人達人が遺した技芸文化としての空手道を学習することによって、国際社会に広く認知された沖縄の人々の歴史的アイデンティティー(自我像)を再認識する。自己の文化的主体的存在を知ることとは自己啓発作業につながるものである。

【授業の展開計画】

- 第1週 自己紹介と受講心得について
- 第2週 基本技法(I)一突き技、打ち技
- 第3週 基本技法(II)一蹴り技、受け技
- 第4週 補助技法の練成
- 第5週 空手道の型(I)一上地流の「三戦」(サンチン)
- 第6週 空手道の型(II)一同上
- 第7週 空手道の型(III)一同上
- 第8週 空手道の型(IV)一上地流の「完子和」(カンシワ)
- 第9週 空手道の型(V)一同上
- 第10週 空手道の型(VI)一同上
- 第11週 体鍛え(小手、下肢)
- 第12週 「補助運動」「三戦」「完子和」の総合復習
- 第13週 同上
- 第14週 棒術「周氏の棍」
- 第15週 同上
- 第16週 授業の反省と評価

【履修上の注意事項】

- (1) 大学が実施する「定期健康診断」を受診すること。
- (2) 「空手着」を準備すること。
- (3) 稽古日誌をつけ、心身における発見を記録する。

【評価方法】

学外の高段者による審査の結果と出席状況、授業態度及びレポート等で総合的に評価する。

【テキスト】

印刷物(型に関する説明資料)を配布する。

【参考文献】

空手Ⅱ

担当教員 山城 博邦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の生んだ近代(明治)以降の名人達人が遺した技芸文化としての空手道を学習することによって、国際社会に遍く認知された沖縄の人々の歴史的アイデンティティー(自我像)を再認識する。自己の文化的主体的存在を知ることが自己啓発作業につながるものである。

【授業の展開計画】

空手道は沖縄が世界に誇る伝統武術である。この授業科目は、空手道の精神と技を習得し、人格涵養の基礎を作り、武の求める「円満、平等、平和」の精神を実践躬行する。

- 第1週 空手道1の総合復習
- 第2週 同上
- 第3週 型の分解「完子和」(カンシワ)
- 第4週 同上
- 第5週 体鍛え(小手、下肢、ボディー)
- 第6週 同上
- 第7週 組手の基本
- 第8週 同上
- 第9週 組手の打ち込み
- 第10週 同上
- 第11週 同上
- 第12週 約束組手
- 第13週 同上
- 第14週 同上
- 第15週 型と組手試合及び審判方法
- 第16週 授業の反省と評価

【履修上の注意事項】

- (1) 大学が実施する「定期健康診断」を受診すること。学生教育研究災害傷害保険等に加入していることが望ましい。
- (2) 空手着を準備すること。
- (3) 稽古日誌をつけ、心身における発見を記録する。

【評価方法】

学外の高段者による審査の結果と出席状況、授業態度及びレポート等で総合的に評価する。

【テキスト】

印刷物(型に関する説明資料)を配布する。

【参考文献】

健康と運動の科学

担当教員 久高 明

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代人は飽食と運動不足による成人病の増加によって、改めて健康と運動の意義を再認識させられている。将来の余暇の増大を背景とした生涯スポーツ、レクリエーション等の社会体育活動に高い関心を示す様になってきた。これらの活動には、若い人達のボランティア、手助けが必要である。科学的、合理的運動処方を習得し、高い見識を養う事を目的とする。

【授業の展開計画】

- ① オリエンテーション, 講義の進め方、目標、評価法
- ② タバコ被害の実態
- ③ エイズの現状
- ④ 生涯スポーツの紹介。(Ⅰ) バウンドテニス。本県高齢者スポーツの現状、ルール、競技の進め方、実践、得るものは何か。
- ⑤ 生涯スポーツの紹介。(Ⅱ) グラウンドゴルフ。社交の場から得る物は何か。
- ⑥ 生涯スポーツの紹介。(Ⅲ) ゴルフ。沖縄ゴルフの実態、シルバー世代の現状
- ⑦ 健康とは、健康について考えた事はあるのだろうか。
- ⑧ 体力とは？
- ⑨⑩ 運動生理学
- ⑪ トレーニングの種類と狙い
- ⑫ トレーニングの処方
- ⑬ ダイエットの処方
- ⑭ スポーツと栄養
- ⑮ 種目別、内容別飲食の仕方
- ⑯ テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 服装は運動に適した服・シューズを着用のこと。※守れない者はその日欠席とする。

【評価方法】

出席点、実技テスト、日頃の受講態度で評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

ゴルフ I

担当教員 久高 明

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

平成元年より高等学校体育科目の中にゴルフ競技が取り入れられ、また全国大学300余数が講義に採用している。この様に、一般大衆化した様子がうかがえる。しかし、大事な基本を指導してくれる場所や指導者が他県に比較して極端に少ないのが悩みの種である。この様な社会的ニーズに答え、ゴルフの特徴とされる自分に対する厳しさとマナー・エチケット等を習得、生涯スポーツへの動機づけを目的とし、指導する。

【授業の展開計画】

- ① オリエンテーション
- ② マナーとエチケット・ルールについて
- ③ 物理的飛球法則について
- ④ 運動生理学
- ⑤ 基本原則（1～14）
グリップ・エイム・セットアップ・スイングプレーン・ウイズスオブアーク・レンジスオブアーク・ポジション・レバーシステム・タイミング・リリース・ダイナミックバランス・スイングセンター・コネクション・インパクト
- ⑥～⑭ スイングショット
- ⑮ ゴルフコース実践ラウンド
- ⑯ スイングテスト

【履修上の注意事項】

- (1) 服装は運動に適した服・シューズを着用のこと。※守れない者はその日欠席とする。

【評価方法】

出席点、実技テスト、日頃の受講態度で評価する。

【テキスト】

【参考文献】

ゴルフⅡ

担当教員 久高 明

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

平成元年より高等学校体育科目の中にゴルフ競技が取り入れられ、また全国大学300余数が講義に採用している。この様に、一般大衆化した様子がうかがえる。しかし、大事な基本を指導してくれる場所や指導者が他県に比較して極端に少ないのが悩みの種である。この様な社会的ニーズに答え、ゴルフの特徴とされる自分に対する厳しさとマナー・エチケット等を習得、生涯スポーツへの動機づけを目的とし、指導する。

【授業の展開計画】

- ① オリエンテーション
- ② マナーとエチケット・ルールについて
- ③ 物理的飛球法則について
- ④ 運動生理学
- ⑤ 基本原則（1～14）
グリップ・エイム・セットアップ・スイングプレーン・ウイズスオブアーク・レンジスオブアーク・ポジション・レバーシステム・タイミング・リリース・ダイナミックバランス・スイングセンター・コネクション・インパクト
- ⑥～⑭ スイングショット
- ⑮ ゴルフコース実践ラウンド
- ⑯ スイングテスト

【履修上の注意事項】

- (1) 服装は運動に適した服・シューズを着用のこと。※守れない者はその日欠席とする。

【評価方法】

出席点、実技テスト、日頃の受講態度で評価する。

【テキスト】

【参考文献】

サッカー I

担当教員 笹澤 吉明

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

サッカーのルールと基本的技術・戦術を学び、ゲームを楽しむことを目的とし開講します。また、チーム対抗のリーグ戦を通して、リーダーシップ、協調性、自主性を養うことも目的とします。基本的技術であるボールコントロールの習得に特に主眼を置きます。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第3回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第4回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第5回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第6回 チーム練習と前期リーグ
- 第7回 チーム練習と前期リーグ
- 第8回 チーム練習と前期リーグ
- 第9回 チーム練習と前期リーグ
- 第10回 チーム練習と前期リーグ
- 第11回 チーム練習と後期リーグ
- 第12回 チーム練習と後期リーグ
- 第13回 チーム練習と後期リーグ
- 第14回 チーム練習と後期リーグ
- 第15回 チーム練習と後期リーグ
- 第16回 スキルテスト、及び口頭試験

【履修上の注意事項】

率先して準備や後片付け、審判などのマナーができる、またはその意欲のある学生が望ましい。服装はサッカーのできる服装と運動靴。スパイクも可。ジーパンは不可。装飾品も不可。裸足も不可。雨天時は室内でフットサルを行うこともあるので体育館シューズも用意しておくこと。筆記用具も用意しておくこと。

【評価方法】

出欠状況、チームのゲーム成績、個人の技術・戦術の習得状況、レフリーポイント、レポート等の総合評価。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

サッカーⅡ

担当教員 一笹澤 吉明

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

サッカーのルールと基本的技術・戦術を学び、ゲームを楽しむことを目的とし開講します。また、チーム対抗のリーグ戦を通して、リーダーシップ、協調性、自主性を養うことも目的とします。基本的技術であるボールコントロールの習得に特に主眼を置きます。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第3回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第4回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第5回 ルールの習得、基本技術・戦術の練習、およびゲーム
- 第6回 チーム練習と前期リーグ
- 第7回 チーム練習と前期リーグ
- 第8回 チーム練習と前期リーグ
- 第9回 チーム練習と前期リーグ
- 第10回 チーム練習と前期リーグ
- 第11回 チーム練習と後期リーグ
- 第12回 チーム練習と後期リーグ
- 第13回 チーム練習と後期リーグ
- 第14回 チーム練習と後期リーグ
- 第15回 チーム練習と後期リーグ
- 第16回 スキルテスト、及び口頭試験

【履修上の注意事項】

率先して準備や後片付け、審判などのマネージメントができる、またはその意欲のある学生が望ましい。服装はサッカーのできる服装と運動靴。スパイクも可。ジーパンは不可。装飾品も不可。裸足も不可。雨天時は室内でフットサルを行うこともあるので体育館シューズも用意しておくこと。筆記用具も用意しておくこと。

【評価方法】

出欠状況、チームのゲーム成績、個人の技術・戦術の習得状況、レフリーポイント、レポート等の総合評価。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

スポーツ演習

担当教員 宮城 政也、与那覇 清徳

対象学年 2年

開講時期 前期・後期

単位区分 選択

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

体育・スポーツ科学、健康科学に関する理論を学び、身体運動とスポーツ文化に関する幅広い教養を身につけ、自身の生涯に亘る健康管理に役立て、将来指導者としての実践に応用する基礎を養う。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション 教官の自己紹介、授業の概要と年間の授業の進め方についての説明。体育・スポーツ科学、健康科学に関する理論の必要性とその意義。
- 第2回 体力とは 体力の構成要素を理解し、それらの測定方法も学ぶ。
- 第3回 運動生理学の基礎 その1 運動を支配する機能（神経系）、運動を発現する機能（筋）、運動を維持させる機能（呼吸循環器系）
- 第4回 運動生理学の基礎 その2 第3回の続き。
- 第5回 体力トレーニングの基礎 その1 トレーニングとは。トレーニングの原則。筋出力、呼吸循環器系、神経系へのトレーニング効果。トレーニング方法。子どものトレーニング
- 第6回 体力トレーニングの基礎 その2 第5回の続き。
- 第7回 スポーツマンのための栄養学 その1 基本的な栄養素を学び、それらと運動との関連を考察する。
- 第8回 スポーツマンのための栄養学 その2 第7回の続き。
- 第9回 睡眠の生理 睡眠研究の歴史とその成果を学ぶ。睡眠脳波による睡眠段階を学ぶ。また、主観的な睡眠感や夢についてのこれまでの知見も学ぶ。
- 第10回 運動と睡眠 これまでの運動と睡眠の研究の知見を学ぶ。
- 第11回 パワーアップ、スタミナアップの食事法 筋肉と骨づくりの食事内容とその摂取のタイミングを学ぶ。また、スタミナづくりの食事内容とその摂取のタイミングを学ぶ。グリコーゲンローディングや鉄の摂取を学ぶ。
- 第12回 合宿・試合時の食事法 合宿時のトレーニングと食べ方を学ぶ。また、試合前の食べ方や試合時の水分摂取法も学ぶ。
- 第13回 エネルギー消費量の推算 RMRやEaを用いたエネルギー消費量の推算方法を学び、各自の一日の消費量を推算する。
- 第14回 運動を取り入れた健康管理 これまでの講義で学んだ知識を基に、自己の健康管理法をデザインする。
- 第15回 まとめ 各自、自己の健康管理を口頭発表し、相互討論する。また今後の研究課題を検討する。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する。

【テキスト】

無し。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- ・鈴木正成, スポーツの栄養・食事学, 同文書院
- ・鈴木正成, 勝利への新スポーツ栄養学, チクマ秀版社
- ・McArdle, W. D. ら著, 田口貞善ら訳, 運動生理学-エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス, 杏林書院

スポーツ演習

担当教員 與那覇 清徳

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日常のスポーツや運動を行う時、多くの人が体験するいろいろな事象・症状・効果などについてそのメカニズムを健康上の意義についてスポーツ科学、健康科学から学びスポーツ文化に関して興味・関心を高め指導者としての資質を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・年間計画（授業の進め方）
2	体育・スポーツの現状 体育とは・スポーツとは・運動とは
3	運動の科学的特性 運動生理・運動心理・運動力学
4	第3回の授業に続く
5	運動処方と練習法
6	第5回の授業に続く
7	体力とトレーニング
8	第7回の授業に続く
9	運動と心の健康
10	運動と睡眠
11	食生活と健康
12	スポーツと障害（スポーツ障害の発生原因）
13	実技（健康・体力作りの実践法）
14	実技（トレーニングの基本原則）
15	個人発表
16	テスト、評価、課題提出

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

- ・出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）
- ・レポート、テスト、出席、授業態度等で総合評価する

【テキスト】

無し。適宜プリント配布する。

【参考文献】

スポーツと健康の科学（広島県スポーツ科学研究編）
 スポーツと健康の科学（九州大学化学センター）

スポーツ演習

担当教員 一笹澤 吉明

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

体育・スポーツ科学、健康科学に関する理論を学び、身体運動とスポーツ文化に関する幅広い教養を身につけ、自身の生涯に亘る健康管理に役立て、将来指導者としての実践に応用する基礎を養う。

【授業の展開計画】

第1回 オリエンテーション 教官の自己紹介。授業の概要と年間の授業の進め方についての説明。体育・スポーツ科学、健康科学に関する理論の必要性とその意義。

第2回 体力とは 体力の構成要素を理解し、それらの測定方法も学ぶ。

第3回 運動生理学の基礎 その1 運動を支配する機能（神経系）、運動を発現する機能（筋）、運動を維持させる機能（呼吸循環器系）

第4回 運動生理学の基礎 その2 第3回の続き。

第5回 体力トレーニングの基礎 その1 トレーニングとは。トレーニングの原則。筋出力、呼吸循環器系、神経系へのトレーニング効果。トレーニング方法。子どものトレーニング

第6回 体力トレーニングの基礎 その2 第5回の続き。

第7回 スポーツマンのための栄養学 その1 基本的な栄養素を学び、それらと運動との関連を考察する。

第8回 スポーツマンのための栄養学 その2 第7回の続き。

第9回 睡眠の生理 睡眠研究の歴史とその成果を学ぶ。睡眠脳波による睡眠段階を学ぶ。また、主観的な睡眠感や夢についてのこれまでの知見も学ぶ。

第10回 運動と睡眠 これまでの運動と睡眠の研究の知見を学ぶ。

第11回 パワーアップ、スタミナアップの食事法 筋肉と骨づくりの食事内容とその摂取のタイミングを学ぶ。また、スタミナづくりの食事内容とその摂取のタイミングを学ぶ。グリコーゲンローディングや鉄の摂取を学ぶ。

第12回 合宿・試合時の食事法 合宿時のトレーニングと食べ方を学ぶ。また、試合前の食べ方や試合時の水分摂取法も学ぶ。

第13回 エネルギー消費量の推算 RMRやEaを用いたエネルギー消費量の推算方法を学び、各自の一日の消費量を推算する。

第14回 運動の心理的側面 動機付け、リラクゼーション等を学ぶ。

第15回 運動を取り入れた健康管理 これまでの講義で学んだ知識を基に、自己の健康管理法をデザインする。

第16回 まとめ 各自、自己の健康管理を口頭発表し、相互討論する。また今後の研究課題を検討する。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する。

【テキスト】

無し。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

・鈴木正成，スポーツの栄養・食事学，同文書院
 ・鈴木正成，勝利への新スポーツ栄養学，チクマ秀版社
 ・McArdle, W. D. ら著，田口貞善ら訳，運動生理学-エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス，杏林書院

卓球 I

担当教員 石川 拓也

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

卓球は、スポーツの中でも有数の高い瞬発力、持久力、反射神経、動体視力等の身体能力が必要とされるスポーツである。

しかし、技術、体力に見合ったプレーを手軽に楽しむこともできるため、近年は生涯スポーツとして、また医療現場のリハビリ等としても広く活用されている。

本講義を通して生涯スポーツとしてのルールを理解や体力の維持、技術の向上をはかる、

【授業の展開計画】

- 1週 登録確認、オリエンテーション
- 2週 ルール、用具の説明、フリー練習
- 3～5週 基本技術の習得(フォアハンド、バックハンド、サービス、レシーブ等)
- 6～8週 応用技術の習得(スマッシュ、ドライブ、ブロック等)
- 9～11週 ゲーム練習(シングルス)
- 12～14週 ゲーム練習(ダブルス)
- 15週 ゲーム練習(団体戦)
- 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

運動に適した服装、体育館シューズを着用すること。

【評価方法】

出席日数、受講態度、期末試験で評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

卓球Ⅱ

担当教員 石川 拓也

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

卓球は、スポーツの中でも有数の高い瞬発力、持久力、反射神経、動体視力等の高い身体能力が必要とされるスポーツである。

しかし、技術、体力に見合ったプレーを手軽に楽しむこともできるため、近年は生涯スポーツとして、また医療現場のリハビリとしても広く活用されている。

本講義では卓球Ⅰで習得した技術を高め、さらなる体力の維持、技術の向上をはかる。

【授業の展開計画】

- 1週 登録確認、オリエンテーション
- 2週 ルール、用具等の説明、フリー練習
- 3週 基本技術の習得(フォアハンド、バックハンド、サービス、レシーブ等)
- 4週 応用技術の習得(スマッシュ、ドライブ、ブロック等)
- 5～14週 ゲーム練習(シングルス、ダブルス)
- 15週 ゲーム練習(団体戦)
- 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

運動に適した服装、体育館シューズを着用すること。

【評価方法】

出席日数、受講態度、期末試験で評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

バスケットボール I

担当教員 長嶺 さおり

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バスケットボールは5人で行う球技であり、それぞれに違った役割がある。声を出して連携・協力し合い、各々の役割を果たすことによって得点できる喜び、勝利できる喜びを得ることができる。これらを踏まえ、バスケットボールの技術や戦術を学ぶことで、楽しさ・奥深さに気付かせ、団体競技の連帯感の心地よさを味あわせるとともに、体力の向上を目指す。また、集団行動における協調性と社会性を育成する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|-----|---|---|
| 1週 | 登録およびオリエンテーション | |
| 2週 | 基礎練習（パス、シュート、ドリブル、ボールハンドリング）、レベル確認のためのゲーム | |
| 3週 | 〃 | 2対1、3対2の攻防 |
| 4週 | 〃 | 〃 |
| 5週 | 〃 | ディフェンスフットワーク（サイドステップ、クロスステップ）、3対3、4対4、ゲーム |
| 6週 | ディフェンスフットワーク（サイドステップ、クロスステップ）、3対3、4対4、ゲーム | |
| 7週 | 2対2、3対3のコンビネーション（スクリーンプレー）、2対1、3対2の攻防、ゲーム | |
| 8週 | | 〃 |
| 9週 | | 〃 |
| 10週 | | 〃 |
| 11週 | フォーメーション・作戦の研究、ゲーム（リーグ戦） | |
| 12週 | 〃 | |
| 13週 | 〃 | |
| 14週 | 〃 | |
| 15週 | 〃 | |
| 16週 | 実技テスト | |

【履修上の注意事項】

体育館シューズ、体育時にふさわしい服装を着用のこと。
体育館での飲食を禁止する。

【評価方法】

出欠状況、受講態度、技術、試合結果、テスト等を総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

バスケットボール I

担当教員 大嶺 清一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バスケットボールの技術と楽しさを味わうとともに、体力の向上と健康の保持増進に加え集団の規律と社会性を育成する。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス・バスケットボール特性の理解
2. ボールコントロール・パス、シュート、ドリブル
3. オーバーナンバー（2対1）の攻撃
4. 実践練習（3：3のゲーム、4：4のゲーム、5：5のゲーム）
5. 2：2のコンビネーション
6. //
7. 3：3～5：5（ハーフコート、オールコート）実践練習（5：5のゲーム）
8. //
9. 実践練習・試合運営の研究
10. //
11. //
12. //
13. フォーメーションの研究（攻・防）
14. 作戦・戦術の研究（攻・防）
15. //
16. テスト

【履修上の注意事項】

体育館シューズ、体育時にふさわしい服装を着用のこと。
体育館での飲食を禁止する。

【評価方法】

出・欠席、授業時の意欲、服装、試合結果、テスト等を総合的に判断する。

【テキスト】

随時プリントを用意する。

【参考文献】

NEW COLOR SPORTS 2010/一ツ橋出版
バスケットボール/日東書院
プレーヤーとコーチのための図解バスケットボール/ベースボール・マガジン社

バスケットボールⅡ

担当教員 長嶺 さおり

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バスケットボールⅠで習得した基本的技能と知識をさらに磨き、各チームでフォーメーションや作戦を決め、よりレベルの高いゲームができるようにし、真の楽しさを知る。また、Ⅰと同様にチームの連帯感を深め、協調性をはぐくみ、体力の向上を目指す。

【授業の展開計画】

- 1週 登録およびオリエンテーション
- 2週 基礎練習の復習（パス、シュート、ドリブル）、レベル確認のためのゲーム
- 3週 // 、リバウンドの取り方、ゲーム
- 4週 ディフェンスの仕方、チームディフェンスの研究、ゲーム
- 5週 //
- 6週 3対3、2対2のスクリーンプレーの研究、ゲーム
- 7週 //
- 8週 フォーメーションの研究、ビデオ学習、ゲーム
- 9週 //
- 10週 //
- 11週 ゲーム（リーグ戦）
- 12週 //
- 13週 //
- 14週 //
- 15週 //
- 16週 実技テスト

【履修上の注意事項】

体育館シューズ、体育時にふさわしい服装を着用のこと。
体育館での飲食を禁止する。

【評価方法】

出欠状況、受講態度、技術、試合結果、テスト等を総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

バスケットボールⅡ

担当教員 大嶺 清一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バスケットボールの技術と楽しさを味わうとともに、体力の向上と健康の保持増進に加え集団の規律と社会性を育成する。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス・基礎技術の復習
2. //
3. 3：3のゲーム、4：4のゲーム、5：5のゲーム
4. //
5. 実践練習（5：5のゲーム）ビデオ学習・ルールの研究
6. //
7. //
8. //
9. 実践練習（5：5のゲーム、リーグ戦）
10. //
11. //
12. //
13. フォーメーションの研究（攻・防）
14. 試合運営の方法・作戦、戦術の研究（攻・防）
15. //
16. テスト

【履修上の注意事項】

体育館シューズ、体育時にふさわしい服装を着用のこと。

体育館での飲食を禁止する。

受講対象者はバスケットボールⅠを終了した人、または、およそそれと同等の技能を身につけた人の受講が望ましい。

【評価方法】

出・欠席、授業時の意欲、服装、試合結果、テスト等を総合的に判断する。

【テキスト】

随時プリントを用意する。

【参考文献】

NEW COLOR SPORTS 2010/一ツ橋出版

バスケットボール/日東書院

プレーヤーとコーチのための図解バスケットボール/ベースボール・マガジン社

バドミントン I

担当教員 仲里 弥生

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バドミントンは、いろいろなストロークを正確に、かつ攻撃的に継続して打つ事によって、対戦相手にエラーをさせるように仕向ける競技である。したがって、「試合時での技術のレベル」「コート内移動スピード」「スタミナ」が必要をされ、レベルを上げるには、精神的な強さも必要とする奥の深いスポーツである。

今やバドミントンは、人気のスポーツの1つであり、幅広い層で親しまれている。各人が生涯スポーツとして、実践していける事を目指します。

【授業の展開計画】

- 1週 登録およびオリエンテーション
- 2週 基礎的技能(ラケットワーク・握り方・振り方)
- 3週～5週 基本ストローク
(オーバーヘッドストローク・サイドアームストロークアンダーハンドストローク)
- 6週～9週 ①基本ストローク
(クリアー・スマッシュ・ドロップ・レシーブ・ピン等のショット練習)
②試合の進め方(ダブルス・シングルス)
ルールについて
- 10週～16週 試合(ダブルス)

【履修上の注意事項】

- 1、受講者の決定は担当者が行う
- 2、ラケットは各自で準備する
- 3、服装は運動に適した服・シューズを着用する事

【評価方法】

出席、受講態度、技能等を総合して行う

【テキスト】

特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する

【参考文献】

バドミントンⅡ

担当教員 仲里 弥生

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バドミントン1で習得した基礎的・基本的技能をさらに磨き、基本ストロークの幅を広げる。
ダブルスでのローテーションを使って、コンビネーション(2人の動き)を生かして試合が出来るようにする。
バドミントンは、人気のスポーツの1つとして親しまれており、各人が生涯スポーツとして、実践していける事を目指します

【授業の展開計画】

- 1週 登録およびオリエンテーション
2週～4週 基礎練習(オーバーヘッドストローク・サイドアームストロークアンダーハンドストローク)
5週～10週 ①基本ストローク
②ダブルスローテーション
③ダブルスゲームのルールと審判の仕方
11週～16週 試合(ダブルス)

【履修上の注意事項】

- ①受講者の決定は担当者が行う
- ②服装は、運動に適した服・シューズを着用する事
- ③ラケットは、各自で準備する事

【評価方法】

出席、受講態度、技能等を総合して行う

【テキスト】

特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する

【参考文献】

バレーボールⅠ

担当教員 翁長 良成

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業科目は練習の要素と進め方，連続練習からフォーメーション，フォーメーションからチームプレー，作戦の立案，審判実習，ゲーム分析，トレーニング計画等の遂行，学校体育の授業指導，生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用する能力を養うことを目標とする。

【授業の展開計画】

生涯スポーツの一環としての体育及びその基礎教育としての体育を目指す観点から，学生のスポーツへの愛好的態度を育て自己の能力や適正等に応じて，自発的・自主的・主体的にバレーボールを楽しむことができるようにする。

週 授 業 の 内 容

- 1 オリエンテーション
- 2 オーバーハンドパス，アンダーハンドパス
- 3 トスとサービス
- 4 スパイクとレシーブ
- 5 ブロックとチームフォーメーション
- 6 ルールと審判法
- 7 連携プレーの学習
- 8 総合技術の学習
- 9 サーブレシーブからの攻撃
- 10 ブロックカバーからの攻撃
- 11 スパイクフォーメーションと展開
- 12 ゲーム展開の学習①
- 13 ゲーム展開の学習②，相手チームの戦力を読む練習
- 14 ゲーム展開の学習③，バレーボール指導計画案
- 15 ゲーム展開の学習④，バレーボールの学習指導案
- 16 実技テスト

【履修上の注意事項】

受講者は初回講義時に面談等を行い決定する。収容人員を超える希望者がいた場合は抽選も実施する。
服装はトレーニングウェアとし，体育館シューズを持参する。

【評価方法】

出・欠席，授業態度・意欲，実技テスト等を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

バレーボール指導教本（大修館書店）
JVA一貫指導カリキュラム（日本バレーボール協会）

バレーボールⅡ

担当教員 翁長 良成

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業科目は練習の要素と進め方，連続練習からフォーメーション，フォーメーションからチームプレー，作戦の立案，審判実習，ゲーム分析，トレーニング計画等の遂行，学校体育の授業指導，生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用する能力を養うことを目標とする。

【授業の展開計画】

生涯スポーツの一環としての体育及びその基礎教育としての体育を目指す観点から，学生のスポーツへの愛好的態度を育て自己の能力や適正等に応じて，自発的・自主的・主体的にバレーボールを楽しむことができるようにする。

週 授 業 の 内 容

- 1 オリエンテーション
- 2 オーバーハンドパス，アンダーハンドパス
- 3 トスとサービス
- 4 スパイクとレシーブ
- 5 ブロックとチームフォーメーション
- 6 ルールと審判法 前期修了者は9人制バレーボールの学習
- 7 連携プレーの学習 前期修了者は9人制バレーボールの学習
- 8 総合技術の学習 前期修了者は9人制の技術学習
- 9 サーブレシーブからの攻撃 前期修了者は9人制の技術学習
- 10 ブロックカバーからの攻撃 前期修了者は9人制のブロック学習
- 11 スパイクフォーメーションと展開 前期修了者は9人制のスパイクフォーメーション
- 12 ゲーム展開の学習① 前期修了者は9人制ゲーム展開の学習①
- 13 ゲーム展開の学習②，相手チームの戦力を読む練習 前期修了者は9人制ゲーム展開の学習②
- 14 ゲーム展開の学習③，バレーボール指導計画案 前期修了者は9人制ゲーム展開の学習③
- 15 ゲーム展開の学習④，バレーボールの学習指導案 前期修了者は9人制ゲーム展開の学習④
- 16 実技テスト

【履修上の注意事項】

バレーボールⅠ修了者を特に優先する。

受講者は初回講義時に面談等を行い決定する。収容人員を超える希望者がいた場合は抽選も実施する。服装はトレーニングウェアとし，体育館シューズを持参する。

【評価方法】

出・欠席，授業態度・意欲，実技テスト等を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

バレーボール指導教本（大修館書店）
JVA一貫指導カリキュラム（日本バレーボール協会）